

読売新聞 きょう（7月31日）のイチ押し

1面 東京 短縮営業を要請 大阪は休業要請へ

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、東京都は酒を提供する飲食店やカラオケ店に対し、8月3日から営業時間を午後10時までに短縮するよう要請しました。大阪ではミナミの一部エリアで酒を提供する飲食店に対し、休業要請を行う方向です。

- ★ 東京都ではこの日、367人の感染者が新たに確認され、過去最多を更新しました。全国でも1305人で最多を更新しています。感染拡大が全国で勢いを増している状況です。
- ★ 東京都は協力した事業者に20万円を支給します。大阪市も1日1万円程度の支援金を支払う考えのようです。

社会面 共犯医師名で女性と連絡 囑託殺人（本紙の特ダネ）

難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）の女性患者への囑託殺人容疑で、医師2人が逮捕された事件で、女性とツイッターなどでやりとりしていた医師の大久保容疑者が、やりとりの際、もう1人の医師・山本容疑者の名前をかたっていたことがわかりました。自身の名前は伝えておらず、存在を隠す目的があったと思われます。京都府警はどちらが事件を主導したのかといった2人の役割分担などを調べています。

この事件の報道では、女性に投与した薬品が海外で自殺ほう助に使われるバルビツール系睡眠薬だったことや、大久保容疑者がインターネットの掲示板で「安楽死」がバレない方法を募っていたことなどを他紙に先駆けて報じています。本紙の特ダネが続いています。

他紙と比べて

広島、長崎への原爆投下から、まもなく75年になります。本紙は毎年、広島大と共同で被爆者調査を実施しています。今年は被爆者アンケートで1640人から回答を得ました。核兵器廃絶が進まない現状に9割が焦りを感じているという結果が出ました。1面と特集面で掲載しています。高齢化している被爆者の思いを伝え続けようという取り組みのひとつです。